

決算説明会 2013年3月期第3四半期

2013年2月1日 ミネベア株式会社

3Q累計連結業績ハイライト



東日本大震災やタイ大洪水からの回復が進んだものの、 秋口以降、伸びは鈍化

(*************************************	2012年3月期	2013 年 3月期	前年同期比
(百万円)	1Q-3Q累計	1Q-3Q累計	伸び率
売上高	189,164	210,807	+11.4%
営業利益	6,903	10,644	+54.2%
経常利益	5,356	9,261	+72.9%
純利益	△285	4,796	N.M.
一株当たり純利益(円)	△0.75	12.83	N.M.

為替レート	12/3期 1Q-3Q累計	13/3期 1Q-3Q累計
US\$	79.33円	79.75円
ユーロ	112.50円	101.97円
タイバーツ	2.60円	2.56円
人民元	12.30円	12.63円

2013年2月1日

2013年3月期第3四半期累計の連結業績は、前年同期に比べ売上高が11.4%増加し2,108億700万円、営業利益は54.2%増加し106億4,400万円、純利益は黒字化し47億9,600万円となりました。 昨年の東日本大震災やタイ大洪水からの回復が進んだものの、秋口以降、伸びは鈍化しました。

3Q連結業績ハイライト



様々な製品市場での需要が縮小し、前四半期比では減益

(百万円)	2012年3月期	2013 年 3 月期		前年同期比	前四半期比
	3Q	2Q	3Q	伸び率	伸び率
売上高	56,716	70,480	71,705	+26.4%	+1.7%
営業利益	850	4,007	2,943	3.5倍	-26.6%
経常利益	323	3,573	2,319	7.2倍	-35.1%
四半期純利益	∆3,055	2,002	1,076	N.M.	-46.3%
一株当たり 四半期純利益(円)	△8.07	5.37	2.89	N.M.	-46.2%

為替レート	12/3 期 3Q	13/3 期 2Q	13/3 期 3Q
US\$	77.51円	78.69円	79.79円
ユーロ	105.99円	97.65円	103.36円
タイバーツ	2.50円	2.49円	2.60円
人民元	12.16円	12.36円	12.76円

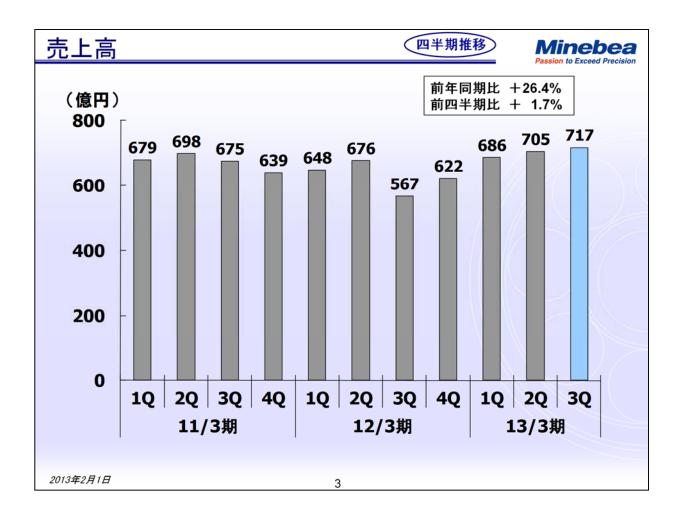
2013年2月1日

2013年3月期第3四半期の連結業績は、売上高は前年同期比で26.4%増、前四半期比で1.7%増の717億500万円でした。営業利益は、前年同期比で3.5倍、前四半期比で26.6%減の29億4,300万円、純利益は前四半期比で46.3%減の10億7,600万円となりました。

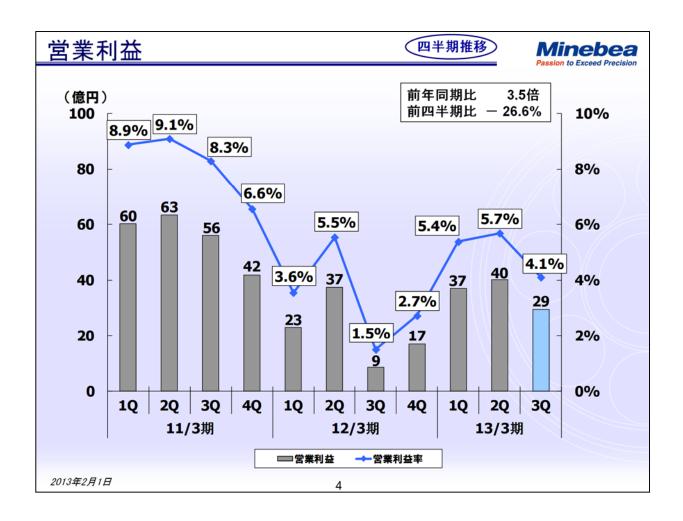
タイ大洪水が発生した前年同期に比べて業績は回復しましたが、PC、HDD、OA機器、産業機器、自動車、家電などといった様々な製品市場における需要が、秋口以降、縮小傾向を強めたことにより、前四半期比では減益となりました。

為替の影響は、11月以降、対ドル、ユーロでの円の独歩安が進みましたが、一方でバーツ、人民元も少し高くなり、生産の9割以上を海外で行っている当社にとっては円換算でのコストも増加しました。この結果、前年同期と比べ売上高でプラス13億円、営業利益でマイナス7億円の影響があったと推計しています。

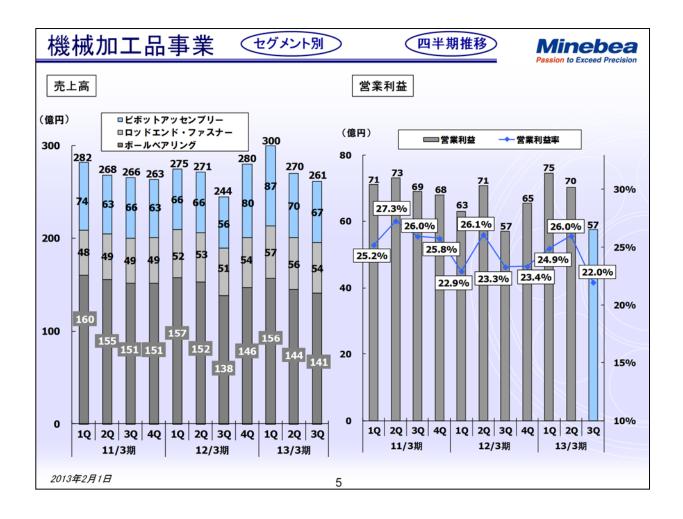
対前四半期では売上高でプラス13億円、営業利益でマイナス4億円の影響でした。



第3四半期の売上高は、LEDバックライト事業の売上が大幅に拡大したものの、世界景気減速が更に進行した影響を受け、機械加工品事業、回転機器事業の売上が減少した結果、前四半期比で1.7%増の717億円に留まりました。



第3四半期の営業利益は、電子機器事業が増益となったものの、機械加工品事業、回転機器事業が減益となった結果、前四半期比26.6%減少し29億円となりました。営業利益率は1.6ポイント低下し4.1%となりました。



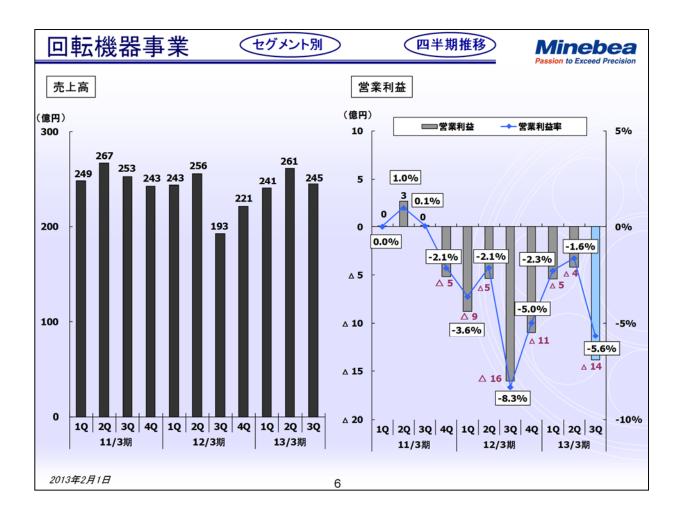
機械加工品事業セグメントの第3四半期の売上高は、前四半期比3.1%減の261億円、営業利益は前四半期比18.0%減の57億円となりました。営業利益率は、4.0ポイント下落し22.0%となりました。

製品別では、ボールベアリングの売上高は、前四半期比2.1%減の141億円となりました。欧州債務危機の長期化、中国経済を始めとする新興国経済の減速などにより各製品市場の需要が縮小傾向を強めており、外販数量の減少に加えて、HDD市場の低迷によるピボットアッセンブリーの大幅減産から内販数量も大きく減少しました。そのため、ベアリングの減産を行いました。労務費削減などのコスト削減施策を実施していますが、稼働率の低下に伴う製造単価の上昇により、利益は減少しました。第4四半期でも世界景気やHDD市況の低迷は当面継続することが予想されますが、ピボットアッセンブリー向け内販に注力していたボールベアリングの生産体制を中径サイズや低価格量産品といった新分野向けに振り向けるとともに、他用途向けの拡販を進めて参ります。

ロッドエンド・ファスナーの売上高は、航空機需要の継続的な盛り上がりに伴う受注の増加はありましたが、欧米のクリスマス休暇の影響もあり、前四半期比3.6%減の54億円となりました。利益は横ばいとなりました。ボーイング787型機の不透明要因はあるものの、エアライン各社は今後も燃料効率の優れた新型機の投入を必要としており、航空機部品市場は中期的に拡大基調が継続する認識です。第4四半期は、円安メリットも想定され、売上・利益ともに拡大を見込んでいます。

ピボットアッセンブリーの売上高は、前四半期比4.3%減の67億円となり、稼働率低下に伴い減益となりました。これは、タイ大洪水による競合他社の被災により引続き高い水準のシェアを維持したものの、PC販売低迷が継続する中、12月に入りHDD市場にて再度在庫調整が行われるなど予想以上に需要が冷え込んだためです。第4四半期も需要は横ばいの見通しです。

第4四半期の機械加工品事業セグメントは、上述の通り、各事業で拡販などによる操業度の改善が見込まれることから、売上・利益共に増加する見通しです。



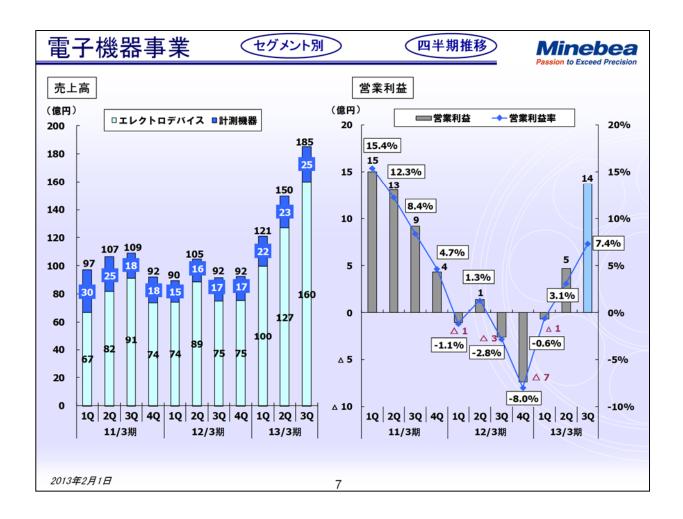
回転機器事業セグメントの第3四半期の売上高は、前四半期比6.3%減の245億円となりました。営業 損益は赤字幅が10億円拡大し14億円の損失、営業利益率は4.0ポイント悪化しマイナス5.6%となり ました。

HDDスピンドルモーター事業は、引き続きタイ大洪水により被災した部品工場での異常稼動損を「災害による損失」として3億円、特別損失に計上しました。この分と会計上の営業利益を合計した実質の損益では赤字が前四半期比で若干拡大しました。これは、第2四半期以降でのHDD市場における在庫調整によって、第3四半期は販売が減少し、また、生産数量を絞ったことにより、稼働率が低下したことによるものです。一方、当社の得意とするサーバー向けや7ミリ厚2.5インチHDD向けなどのハイエンド品でのシェアは上昇しており、第4四半期の販売数量は前四半期比増加する見通しです。これにより、第4四半期ではスピンドルモーター事業の業績改善を見込んでいます。

情報モーター事業は、第2四半期に続き、OA機器、産業機械、自動車、家電などの需要が更に縮小傾向を強めており、売上は減少しました。厳しい事業環境を受けて一層のコスト削減を進めたものの、売上縮小による利益減少の影響は大きく、前四半期に比べ損益は悪化しました。第4四半期も低調な需要が継続する見通しです。

尚、当社とパナソニックは、両社の合弁会社であるミネベアモータについて、パナソニックが保有するミネベアモータ株式40%全てを当社が買い取り、両社の合弁を解消することに、2月1日付けで合意しました。こちらの詳細は、別途、ご説明します。

第4四半期の回転機器事業セグメントは、情報モーター事業の損益は厳しい状況が続くものと想定されますが、スピンドルモーター事業の改善により、セグメント全体での損益についても改善を見込みます。

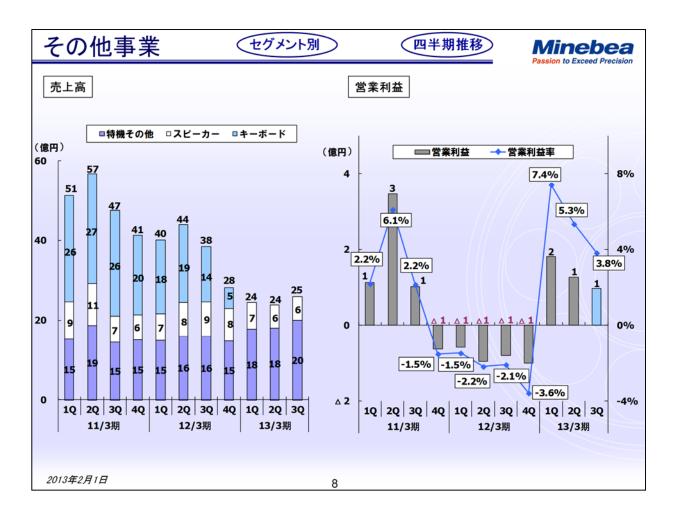


第3四半期の電子機器事業セグメントの売上高は、エレクトロデバイスの売上の大半を占めるLEDバックライトの販売急拡大により、前四半期比23.7%増の185億円となりました。売上増加を受けて、営業利益は14億円と前四半期比2.9倍となり、営業利益率は4.3ポイント改善し、7.4%となりました。

エレクトロデバイスの売上高は、前四半期比26.0%増の160億円となりました。新型スマートフォン向けLEDバックライトは、10月、11月と順調に生産数量を引上げましたが、12月に入り在庫調整の影響を受けました。新型タブレットPC向けLEDバックライトは、8月、9月の在庫調整後に徐々に生産数量を引き上げましたが、12月に入り再度、生産数量が減少しました。来期に向けて次モデル向けの受注取り込みや顧客層の拡大を着実に図っているものの、第4四半期では新型スマートフォン向け、新型タブレットPC向け共に大きく生産数量が落ち込む見通しであり、一時的に売上・利益が急減する見込みです。

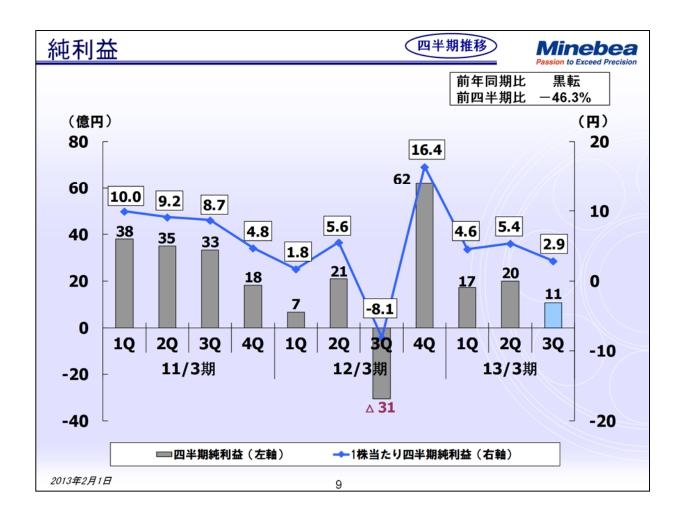
計測機器では、北米向け自動車用部品の需要回復に伴い販売が拡大し、売上高は前四半期比8.7 %増の25億円となりました。利益も堅調に推移しました。

第4四半期の電子機器事業セグメントは、LEDバックライト売上の急減が見込まれることから、利益は大きく落ち込むことを想定しています。

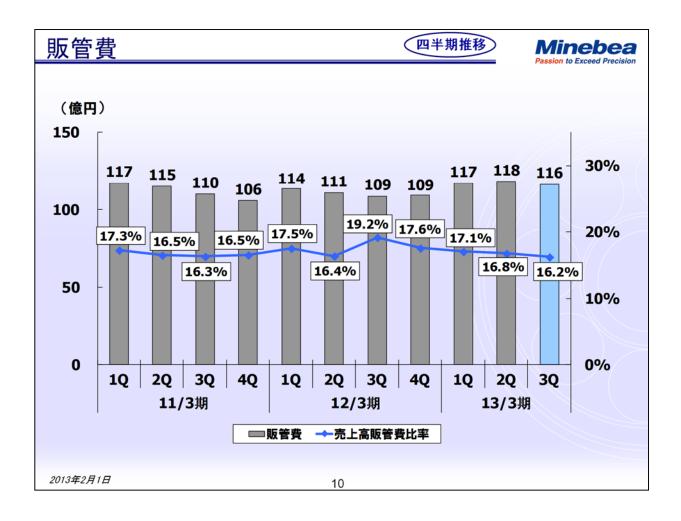


第3四半期のその他事業セグメントでは、売上高は25億円と前四半期比6.7%増加し、営業利益は1億円となりました。

第4四半期の売上・利益は、第3四半期比で横ばいを想定しています。



第3四半期の純利益は、前四半期比46.3%減の11億円、一株当たり利益は2.9円となりました。

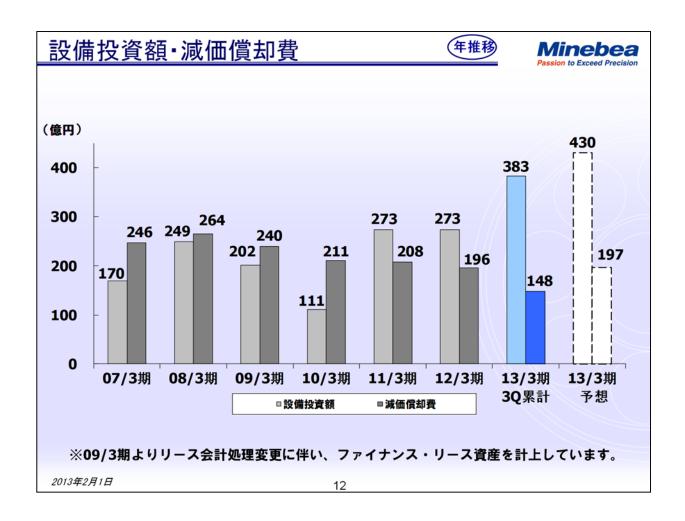


厳しい事業環境を受けて一層の経費節減を進めた結果、売上増加にもかかわらず第3四半期の販管費は前四半期比2億円減少の116億円となりました。売上高販管費比率は前四半期比で0.6ポイント低下し、16.2%となりました。

昨年の東日本大震災やタイ大洪水による売上急減で上昇してしまった売上高販管費比率でしたが、 着実に低下してきました。しかし、第4四半期も事業環境の更なる悪化が見込まれるため、今後も一層 の経費節減を行ってまいります。



売上の伸びの鈍化を受けて、ボールベアリング、ピボットなどで生産を抑制しましたが、第3四半期期末のたな卸資産は、前四半期末に比べて54億円増加しました。これは、急激な円安による為替変動の影響額がプラス57億円あったためです。

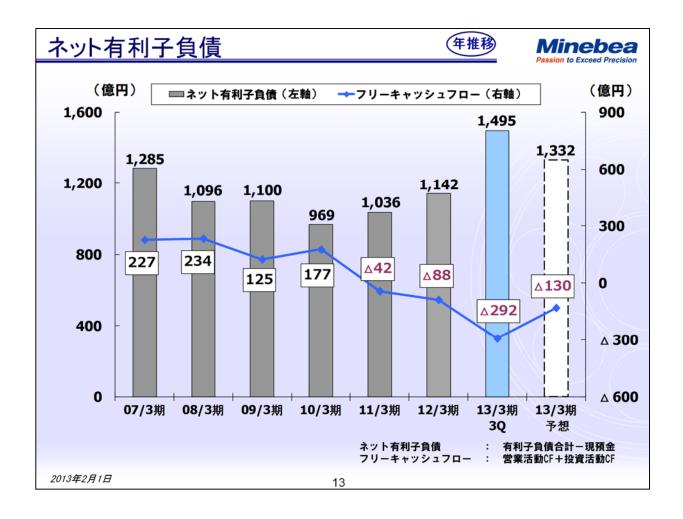


第3四半期累計の設備投資は383億円、減価償却費は148億円でした。

今期の設備投資は430億円の見込みであり、期初計画に含んでいなかった新ビル購入費用を計上したことにより、近年の水準を大幅に超過します。

先行き不透明な経済環境を踏まえ、設備投資は極力抑える方針に切り替えており、設備投資計画で 先延ばしが可能なものについては先延ばしを行っています。

これにより、期初計画の360億円に入っていなかった新東京本部ビル分を除いた今期の設備投資は、290億円に抑える予定です。



このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移です。

第3四半期末におけるネット有利子負債は、1,495億円となり、前期末比353億円の増加となりました。 増加の要因は、これまで成長分野での能力増強を積極的に行い、5月にはモアテック社株式の50.8 %取得を完了し、8月に都内に新東京本部ビルを購入したことなどに加え、中間配当やボーナスの支払い等、資金需要が増加したためです。

第3四半期累計のフリーキャッシュフローは292億円のマイナスとなりました。

尚、移転する大森工場の跡地を売却し、今期の特別利益に計上する見込みです。

今後は投資の抑制、在庫の削減などキャッシュフロー創出に努めることで、ネット有利子負債の増加も抑えていく予定です。

業績予想



2012年11月2日修正の業績予想に、現時点では変更ありません

	2012年3月期	2013年3月期	
(百万円)	通期	通期予想	前年比 伸び率
売上高	251,358	292,000	+16.2%
営業利益	8,599	15,500	+80.3%
経常利益	6,499	13,000	2.0倍
純利益	5,922	7,400	+24.9%
一株当たり 純利益(円)	15.63	19.80	+26.7%

為替レート	12/3期	13/3期想定
US\$	79.07円	79.06円
ユーロ	110.20円	102.23円
タイバーツ	2.59円	2.55円
人民元	12.33円	12.52円

※13/3期通期想定 為替レートは、1~3Q実績レートと4Q計画レートの平均

2013年2月1日

14

2012年11月2日に修正しました通期業績予想に、現時点では変更ありません。

第3四半期実績が計画を下回ったことから、第4四半期のハードルが高くなりましたが、今期目標の達成に向けて努力してまいります。また、来期以降の成長を見据えて各製品の拡販に努めながら、今後見込まれる大森工場の売却益やタイ大洪水に関わる保険金収入などを原資に、本日後述する施策を皮切りに、不採算事業の更なる構造改革を今期中に断行し、収益力の強化を図ります。

モーター合弁事業の解消について



ミネベアは、パナソニックが保有するミネベアモータ株式 40%全てを買い取り、両社の合弁を解消

- ・2004年4月:ミネベアとパナソニック両社のファンモーター、ステッピング モーター、振動モーター、ブラシ付DCモーター事業を統合し、合弁を開始
- ・2010年4月:パナソニックより、ブラシレスモーター事業を合弁会社へ移管
- ・モーター事業を取り巻く環境変化に伴い、合弁を解消。今後は、ミネベアの 完全子会社として事業拡大をはかる
- ・今後もミネベアとパナソニックは、一層の協力関係を維持していく方針

ミネベアモータ株式会社について

- •代表者:赤津 浩之
- ・事業内容:電気機器用及び情報通信機器用小型モータ、 応用機器及び部品の開発・製造・販売
- ・出資比率:ミネベア60%、パナソニック40%(2013年1月末現在)

2013年2月1日

15

本日、当社とパナソニックは、両社の合弁会社であるミネベアモータについて、パナソニックが保有するミネベアモータ株式40%全てを当社が買い取り、両社の合弁を解消することに合意しました。

ミネベアモータは、ミネベアの超精密加工技術、大量生産技術及びコスト競争力と、パナソニックの最 先端商品開発力を活かし、国際競争力のある事業展開を図ることを目的に設立されました。その後、 パナソニックより、小型ブラシレスモーター等の事業移管を受け、事業展開をはかって参りましたが、 近年のモーター事業を取り巻く環境変化に伴い、事業の再検討をおこなった結果、合弁を解消し、ミネ ベアの完全子会社として、より一層の事業拡大を図っていくこととしました。

尚、合弁は解消されますが、今後もミネベアとパナソニックは、一層の協力関係を維持していく方針です。

合弁を通じて、当社はモーター技術者の増強、知的所有権の強化・拡充を図ることができました。今後は、早い時期にミネベアモータを吸収合併することによって、組織のスリム化などを始めとしたコスト削減を図ってまいります。

コアレス・タイプ振動モーターからの撤退



モバイル機器向けコアレス・タイプ振動モーターからの撤退

- ・当社が得意とするコアレス・タイプの振動モーターは、他のタイプに 比べ、レアアース使用量が多いことから、レアアース価格の高騰以降、 価格競争力を喪失し、大きな赤字に
- ・今後も、モバイル機器向けのコアレス・タイプ振動モーター事業の 損益は、改善の見込みが薄いものと判断し、構造改革を断行する
- ・第4四半期に、事業構造改革損失を計上予定



2013年2月1日

16

ミネベアモータの収益力強化に向けて、今般、コアレス・タイプの振動モーターからの撤退を決定しました。

当社が得意とするコアレス・タイプの振動モーターは、起動性能などに優れますが、他のモデルに比べ、レアアース使用量が多いことから、2011年のレアアース価格の高騰以降、価格競争力を失い、大きな赤字が続いていました。様々な施策を検討・実行しましたが、業績改善に至らず、構造改革を断行することとしました。

具体的には、モバイル機器向けのコアレス・タイプ振動モーター事業から撤退し、第4四半期に事業構造改革損失を計上する予定です。モーター市場を取り巻く環境は当面の間厳しい状況が想定されますが、構造改革の断行を通じて回転機器事業の収益力を強化し、来期以降での業績改善を図ってまいります。



ミネベア株式会社 決算説明会

http://www.minebea.co.jp/

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる日間に対いてよります。またままだにあるまで、大人で記さいた。

本資料に掲載のめらゆる情報はミイベア株式芸社に帰属しております。手段・万法を同わり、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

2013年2月1日

17